

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京外国語大学】



〈東京外国語大学留学促進キャラクター:トビタくん〉

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教職員の多様化への取組

- ・大学院国際日本学研究院に外国籍の教員(近代日本文学)を採用し、日本文学史や日本文化研究A・Bなどの授業を行うことにより、本学における国際的な視座からの日本教育研究が深化した。
- ・外国の大学で学位を取得したIR担当教員1名と事務職員1名を採用した。IR担当教員は、経営戦略情報本部において、留学状況の分析などを行い、IR活動を推進した。

○ 本学からの派遣留学生増への取組

- ・本学の国際戦略に基づき、学生交流協定を新たに14大学と締結し、今後、協定に基づく派遣留学生が31名増加(受入学生も同数)することが見込まれる。
- ・派遣留学生は、交流協定校の拡大により、夏学期・冬学期における短期海外留学科目を中心に、前年(797名)に比べ、27名増加した。
- ・修士課程における留学促進のための短期海外留学科目を設置するとともに、大学院合格者に対する留学情報の提供を開始し、修士1年次の留学を可能にした。



短期海外留学科目(ウズベキスタンスタディツアー)

○ 留学生受入増の取組

- ・協定に基づく受入留学生が前年(615名)に比べ、13名増加したほか、通年の受入留学生については、前年(860名)に比べ、30名増加した。
- ・日本語学習者を対象とし、夏・冬学期に開催した『ショートステイ・サマー/ウィンタープログラム』では、協定校・非協定校合わせ、それぞれ12か国64名、10か国37名が参加した。また、「多文化交流実践」の授業を履修する本学学生との交流や、本学学生による日本語授業・研修サポートを通じ、活発な学生交流を行った。

○ 言語関係の取組

- ・卒業までの英語の最低保証の目標として掲げたTOEIC800点の達成者は、前年度(1,426人)に比べ、145人増加した。また、本学独自に設定した目標であるTOEIC900点相当を達成した者は、前年度(485人)比べ、84人増であった。
- ・研究講義棟に新たに設置した多言語ラウンジにおいて、言語指標を意識した特定のスキル獲得や弱点の克服を目的とするCEFR-Jセッションを試験的に9言語開始した。

○ 教務システムの国際化の取組

- ・TUFSCクォーター制の導入により学年暦が柔軟化され、夏・冬学期におけるショートビジット・インターンシップが増加し、学生の自主的・計画的な学習を推進しているが、教育アドミニストレーション・オフィスにおいてTUFSCクォーター制の運用状況を確認し、効果的なアクティブ・ラーニングの実施に向けた提言を行った。
- ・TUFSCポートフォリオを、諸言語の学習履歴や達成度を授業担当教員が活用するとともに、留学履歴による留学白書の作成や、本事業独自の語学能力指標に活用した。

○ 大学の国際開放度への取組

- ・国費留学生の学部への優先配置のため、スカイプ等による面接で渡日前学生選抜を実施し、言語文化学部・国際社会学部に各5名入学した。ブラジルにおける選抜では、本学のリオ・デ・ジャネイロ州立大学Global Japan Officeを活用した。
- ・大学院博士前期課程Peace and Conflict Studies及び日本語教育リカレントコースを中心に、スカイプ等による面接で渡日前学生選抜を実施し、24名が入学した。
- ・渡日前選抜による日本語未習の正規生(留学生)を対象とする「国際日本プログラム」の提供を開始したほか、このプログラムを基礎とした国際日本学部(仮称)設置の検討を進めた。
- ・国際バカロレア認定校からの学生選抜を実施し、海外から6名、国内から1名の出願があった。

○ 外国語による情報発信への取組

- ・WebページのTUFSC Today特集において、Global Japan Officeや、リオオリンピック・パラリンピックへのボランティアスタディツアーの特集記事を英語により発信した。
- ・Webページの英語化の推進により、大学のトピックス記事やイベント情報などを英語により発信した。また、本事業のWebサイトにおいて、Global Japan Officeの活動を引き続き日英両言語併記により発信することにより国際的な観点からの広報が充実した。



- 1. University of Yangon, MYANMAR
- 2. Tamkang University, TAIWAN
- 3. SOAS, Univ of London, U.K
- 4. Shanghai International Studies University, CHINA
- 5. Hankuk University of Foreign Studies, KOREA
- 6. Cairo University, EGYPT
- 7. University of Salamanca, SPAIN
- 8. University of Guanajuato, MEXICO
- 9. University of Belgrade, SERBIA
- 10. Rio de Janeiro State University, BRAZIL
- 11. International University for the Humanities and Development, TRUKMENISTAN

メールマガジンTUFSC TodayにおけるGJO特集記事

ガバナンス改革関連

○ 事務職員の高度化への取組

- ・事務職員国際研修に、国内実地研修として、海外教育機関等からの来訪者への対応を実地研修として新たに設け、4件の研修に延べ7名の事務職員が参加した。

○ **ガバナンス改革への取組**

- ・総合戦略会議に新たに学生支援及び社会貢献マネジメント・オフィスを設けるとともに、各オフィスに随時WGを設置
或いは廃止し機動的な運営を行った。
- ・年俸制度により、新たに6名の教員が年俸制に移行した。また、大学院総合国際学研究院及び国際日本学研究院に
おいて新たにテニュアトラック制度を導入した。この制度に基づき、国立大学改革強化推進補助金 特定支援型「優
れた若手研究者の採用拡大支援」により、新たに4名の任期付教員(4年)を採用した。さらに、クロスアポイントメント制
度により、平成28年4月から教員2名を大学院国際日本学研究院に受け入れた。
- ・IR Officeを中心に、平成24年度及び平成25年度入学者のGPAについて、学生の専攻毎に分析し、総合戦略会議に
おいて報告した。

教育改革関連

○ **Joint Education Programの実施のための取組**

- ・新たな形態を含むJoint Education Programを、学部において11件、大学院において14件実施した。
- ・ウズベキスタンのタシュケント国立東洋学大学とのプログラムでは、グループ毎にテーマを設定したうえで学生を派遣
し、東洋学大生と活動を行い、成果発表のプレゼンを行った。
- ・淡江大学との遠隔講義システムを利用したプログラムでは、教育実習や東アジア文化研究
に関する講義を実施した。
- ・韓国外国語大学校において、本学ポーランド語専攻の学生が、韓国外国語大学校ポーラ
ンド語科の授業に参加するという新たな形態によるプログラムを実施した。
- ・大学院においては、修論ゼミの一部として、本学大学院生が派遣先大学教授の指導を
受けた。

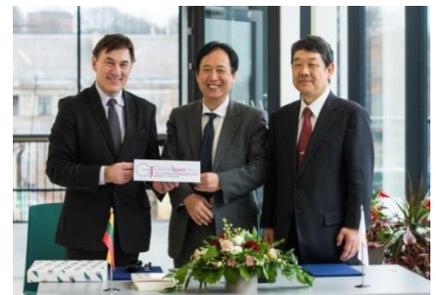


国際人文開発大学(トルクメニスタン)GJO

■ **大学独自の成果指標と達成目標**

○ **Global Japan Officeの展開とTUFSS留学支援共同利用センターの取組**

- ・新たに、国際人文開発大学(トルクメニスタン)、ヴィータウタス・マグヌス大学(リトアニア)
にGlobal Japan Officeを設置し、日本語・日本文化の普及と発信活動を開始した。
- ・既設のヤンゴンオフィス、ロンドンオフィス、カイロオフィスなど10拠点では、引き続き
日本語・日本文化の普及と発信活動を行った。なお、各オフィスに配置した コーディ
ネーターのうち、初任者3名を本学に招へいし、大学説明会を開催した。
- ・TUFSSグローバル・コミュニティ会合をヤンゴン(ミャンマー)で開催したほか、帰国
教育研究者や帰国留学生のネットワーク構築のため、「TUFSSアソシエイツ」(本学
卒業の長期海外居住者、帰国留学生等)294名にグリーティングカードを送付(メ
ール送信)する際に、大学の近況を付記したところ、内容についての反響があった。
- ・TUFSS留学支援共同利用センターでは、多摩地区のフィリピン人留学生に対する
コミュニティ支援を提供する活動を行い、他大学の留学生支援の充実が図られた。



リトアニアGJO開所式の様子

■ **大学の特性を踏まえた特徴ある取組**

○ **英語以外の外国語のCEFR等の国際標準に基づいた言語能力指標の設定**

- ・本学の専攻言語27言語に関して、CEFR-Jによる統一基準を
共有し、教育用言語材料の構築を進め、19言語に関して語彙
表の A2 まで整備を完了した。また、実装可能な言語から、
学習語彙表を語彙学習アプリに搭載した。さらに、評価の可視
化方法に関しても検討し、卒業時のディプロマ・サブリメントに
CEFR-J評価を含めるサンプル版を作成した。
- ・言語指標開発のため、英語については、TOEIC公開テスト団体一
括受験(受験者2,091名)を、その他、ドイツ語(受験者31名)、フ
ランス語(受験者74名)、トルコ語(受験者18名)の各言語能力試験
を受験させた、

27言語全てをCEFR-Jによる統一基準で評価します。



| TUFSS 27言語 | | |
|------------|--------|--------|
| 英語 | ドイツ語 | ポーランド語 |
| チェコ語 | フランス語 | イタリア語 |
| スペイン語 | ポルトガル語 | |
| ロシア語 | モンゴル語 | 中国語 |
| 朝鮮語 | フィリピン語 | |
| インドネシア語 | マレーシア語 | |
| ビルマ語 | タイ語 | ラオス語 |
| ベトナム語 | カンボジア語 | |
| ウルドゥー語 | ヒンディー語 | |
| ベンガル語 | アラビア語 | |
| ペルシア語 | トルコ語 | 日本語 |

〈CEFR-J プロジェクトのイメージ〉

■ **自由記述欄**

○ **平成29年度に向けて**

- ・平成29年度も、本学の掲げる構想実現に向け、着実に取り組んでまいります。
- ・本学における集中講義、本学学生と海外協定校の学生がともに参加するスタディツアー、遠隔講義、同じ言語を学習する
海外協定校の学生との現地タンデム合宿、大学院生の共同指導など、新たな形態によるJoint Education Programを開
拓します。
- ・Global Japan Officeを着実に拡充します。(オランダ、ウクライナ、ロシア、オーストラリアを予定)